

◆「ハーネス」と聞いて浮かぶのはロッククライミングで装着する安全ベルトか、はたまた愛犬の散歩で重宝する胴輪だろうか。馬の口にくわえさせて手綱をつける馬具の名から転用の呼称で、機能はどれも「つなぐ」。よちよち歩きのが子に着せるひも付きのベビー用品や車のシートベルトもハーネスと呼ばれる。

◆静岡県沼津市の「高池(たちち)」で製造のハーネスは電気・通信回路の部品の

時流 地流

呼称だ。電線を束ねた部品の一つ一つは小さく、長短様々だが、コネクタ同士をつなぎ合わせれば複雑な枝分かれの配線も自由自在。工作機械や医療機器、ゲーム機などを動かす血管や神経の仕組みを担う。

◆古井誠社長(60)によると、同業の中小は数あれど、「1本分の配線から注文に応じます」とうたうのは高池だけ。1本といえど相手の規格を満たす部品作りには一工夫が必要だ。手間はかかるが、大手がまねので

ウェブで町工場をつなぐ

きない小回りと守備範囲の広さでリーマン・ショック後の市場に割って入る。

◆「1本から」の見積もり依頼はウェブサイト経由で届く。沼津の本社工場の生産管理部門がすぐに対応。

東京の営業マンが出向くことはない。営業をかけずに受注できる世界を予想だにできなかったという。「価格は高いが、早い」のウェブ営業で急成長の本社工場を多くの人が視察で訪れる。

◆歴史は20年ほどだが山梨にも工場を持つ。パートを含めた従業員は約120人と地元雇用に貢献。フィリピンの生産拠点も成長線を描く。中小のものづくりが元気を失って久しい。沼津商工会議所は2月の企業セミナーで古井社長を講師に招いた。地方のビジネスモデルとして期待する。

◆受注生産以外に高池ブランドを付けた初の自社商品も売り出した。電線を束ねる作業のお助けツールで、現場の声から生まれた。古井社長は「良いものを安く作り、業界を活性化したい」と話し、商品の共同開発を目指す。人工衛星「まいど1号」の派手さはないが、まずは腕に覚えがある町工場をウェブでつなげる。